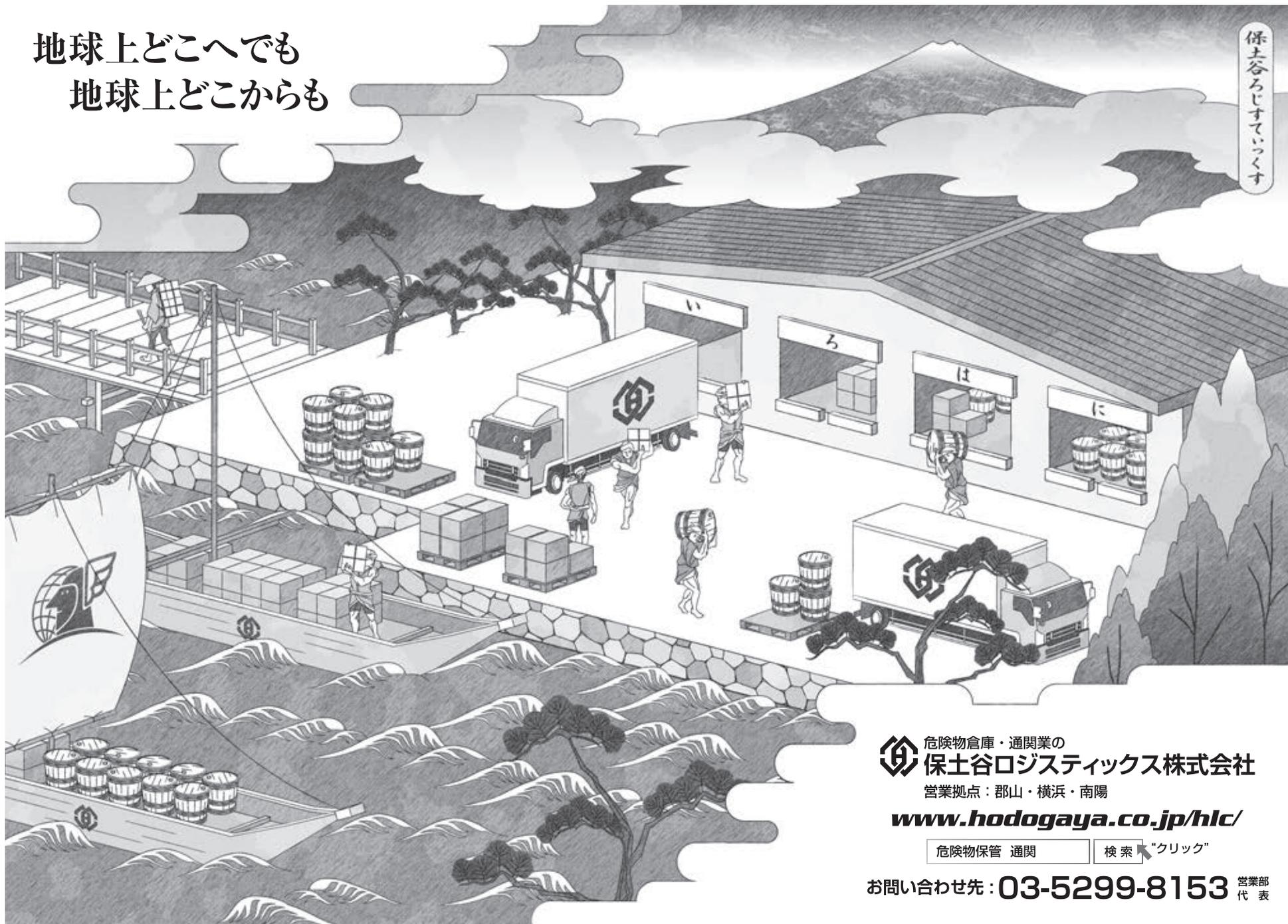


地球上どこへでも
地球上どこからも

保土谷ろしすていくす



危険物倉庫・通関業の
保土谷ロジスティクス株式会社

営業拠点：郡山・横浜・南陽

www.hodogaya.co.jp/hlc/

危険物保管 通関 検索  “クリック”

お問い合わせ先：03-5299-8153 営業部 代表

危険物は おまかせください!

私たちは、「安全」を「確実」に運ぶエキスパートです。

国際危険品 輸送混載サービス

ベトナム向けサービス開始しました

横浜 / 神戸 ⇄ 上海 週1便
横浜 / 神戸 ⇒ 香港 週1便
横浜 / 神戸 ⇒ プサン 週2便
横浜 ⇒ シンガポール 週1便
横浜 ⇒ ホーチミン 週1便
上海 ⇒ 大阪 / 横浜 隔週1便

- 危険品クラス 3、6.1、8、9対応可能 ※1
- 梱包・通関を含めた一貫サービス取扱い。
- 普通品もお取扱い致します。
- ベトナム・中国・韓国内陸向け輸送も可能。

※1 危険品によるコンテナ積載条件、積載数量により、お引き受けできない場合がございますが、予めご了承ください。



業務内容

- 石油化学品を中心とした各種危険物・化学品の取扱い（危険物、劇毒物、医薬品、農薬、有害性物質、高圧ガスなど）
- 輸出・輸入貨物の通関手続き、各種倉庫保管、運送業

国内主要6大港を
網羅するネットワークを
主体とした一環サービス



ブッキングはこちらへ TEL 東京(複合輸送課) 03-5730-4051 大阪 06-4391-1313 URL <http://www.chikko.co.jp/booking/>



本社 〒650-0024 神戸市中央区海岸通3番地(シップ神戸海岸ビル)
TEL (078) 391-6671 FAX(078)391-6673
事業所 東京(営業部) 大阪(営業部) ポートアイランド化学品センター 横浜化学品センター
名古屋化学品センター 中部物流センター
千葉 九号地 和歌山 桜島 大阪西 遠矢浜 カルモ 広島 北九州 上海
URL <http://www.chikko.co.jp/>



AEO認定通関業者

丸善チャンネルで
案内動画公開中→



おかげさまで創業**100**周年
丸善は、これからも皆様と共に。

京葉油槽所

柏事業所

事業内容

- ・通関業務代行
- ・詰替・荷姿変更
- ・保管(保税対応)
- ・配送手配
- ・ドラム・小缶充填

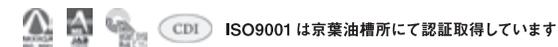
設備紹介

■タンク設備 京葉油槽所

- ・全タンク・ライン all ステンレス
- ・総保管量(63基)34,520kl
- 1タンク・1ラインの安全品質

■倉庫設備 京葉油槽所 柏事業所

- ・危険物倉庫 第2類 / 第3類 / 第4類
- ・普通品倉庫 ※毒劇物取り扱い可



ISO9001は京葉油槽所にて認証取得しています

ケミカルトータルロジスティクスを提供する

善 丸善 株式会社

■京葉油槽所：〒272-0002 千葉県市川市二俣新町 19 番地 ■柏事業所：〒270-1403 千葉県白井市河原子 244-6

TEL：047-328-3101(代表) FAX：047-328-0665 URL：<https://www.maruzeng.co.jp>



The #1 Tank in Container Leasing for 50 Years



ユーロテナージャパン

〒100-0005
東京都千代田区丸の内3-4-1
新国際ビル8階

T E L : 03-6689-3561
m a i l : shinei.sato@eurotainer.co.jp



EXSIF

WORLDWIDE



世界最大のタンクコンテナ リーシングカンパニー

国際 / 国内 / 中国 各認可済タンク
充実のデポ・ネットワークでサポート
ChemLINE[®] タンク (米 APC 社認定工場)
食品輸送可能 新造タンク ご用命ください

エクシフ ワールドワイド インク

東京駐在員事務所
〒102-0085 東京都千代田区六番町 15 番地
鳳翔ビル 5 階
電話 (03)3556-8331 Fax. (03)3556-8345
www.exsif.com



A Marmon Group/Berkshire Hathaway Company

Responsible Care for Global Environment

ケミカルとガスのトータルソリューションは
日本コンセプト株式会社へお任せください。



京葉臨海支店



阪神支店



神戸支店



中部支店



新潟出張所



京浜支店

充実した タンクターミナル ネットワーク

環境、つなぐ未来。

NICHICON
NIPPON CONCEPT CORPORATION

日本コンセプト株式会社

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-2
TEL.03-3507-8777 www.n-concept.co.jp



徳山支店



水島支店

先駆ける物流へ

日本トランスシティは、倉庫・港湾・輸送・国際物流など様々なステージで、
すべてに先駆ける先進の物流ノウハウを駆使して、
信頼のトータル・ロジスティクス・サービスを提供しています。

Transport



Warehouse



International



Port



物流と人のハーモニー
TRANCY
日本トランスシティ株式会社

<https://www.trancy.co.jp>

人と人を結び、都市と都市をつなぎ、
新しい夢と文化を育むトランシグループ。

JOT の化学品輸送とは

半世紀を越える経験により蓄積されたノウハウを活かし、各種化学品・食品等の液体・粉粒体を輸送する各種コンテナのリース事業および複合一貫輸送サービスを展開しています。



タンクローリー代替用に対応

工具箱、ベントラインやホースケースを標準装備し、よりローリーに近い仕様の軽量・低背(高さ 1980 mm)の新タイプです。

JOT 日本石油輸送株式会社 <http://www.jot.co.jp>

〒141-0032 東京都品川区大崎 1-11-1 (ゲートシティ大崎ウエストタワー 16F)

■化成品部 (TEL:03-5496-7688 FAX:03-5496-7856 E-MAIL:kaseihin@jot.co.jp)

■海外事業部 (TEL:03-5496-3050 FAX:03-5496-7856 E-MAIL:international@jot.co.jp)

■海外事業部 シンガポール駐在員事務所

200 Cantonment Road #13-05 Southpoint, Singapore 089763

(TEL:+65-6420-9055 FAX:+65-6224-7713 E-MAIL:jot.sinro@jot.co.jp)



化学品・危険品の総合物流を グローバルかつワンストップで提供



輸出入通関・国際輸送
フォワーディング

タンクターミナル

航空・海上・鉄道・陸上
複合一貫輸送

危険品・医薬品・一般品
温度管理倉庫

コンテナ/IBC等輸送容器の
リース・レンタル・販売

NRS 株式会社 **日 陸**

<https://www.nrsgroup.co.jp>

特別編集企画

『危険物・化学品物流特集』

需要高まる危険物・化学品物流

レポート

有力プレイヤーの危険物物流戦略を追う

設備投資、新たなサービス開発に意欲

高度な専門性が必要とされる危険物物流——。国内外における顧客のニーズの多様化を背景に、危険物の輸送や保管に携わる物流企業は設備投資や新たなサービスの開発に意欲的だ。危険物物流の有力プレイヤーの取り組みをレポートした。

（掲載は社名50音順）

三和倉庫

千葉で来春、新危険物倉庫が稼働

横浜も増床検討、自動倉庫化も視野

と、新中期経営計画の初年度は、旺盛な危険物の保管需要に対応するため、千葉事業所で危険物倉庫を増設する。

同事業所は親会社の日本曹達

三和倉庫（本社・東京都港区、瓜生博幸社長）は、10年後の目指す姿と戦略を長期ビジョンとしてまとめ、その第1ステージとなる新たな中期経営計画（2020～22年度）をスタートさせた。今年度は第1弾として千葉事業所（千葉県原市）で危険物倉庫（約1000㎡）を新設し、21年4月から稼働予定。また、横浜事業所（横浜市緑区）を第一候補とし、自動倉庫化も視野に入れた危険物倉庫の増床を検討する。

長期ビジョンのもと

総額90億円の投資を計画

同社では新中期経営計画に先

立ち、長期ビジョンを策定。10年後の目指す姿のひとつとして「危険物、毒劇物、医薬品への特化による収益性・付加価値の向上」を掲げ、老朽化した倉庫の建て替えや資産の移動による事業所の再編に取り組みこととし、総額90億円の投資を計画している。

「資産の半分は土地であり、その土地を有効活用し、ROA（総資産利益率）を高め、企業価値を向上させる。それには総資本回転率を高める必要がある」（同社）と判断。こうした方針のも



千葉事業所の全景

の千葉工場に隣接し、既存の施設をスクラップせずに新規で倉庫を増設可能な環境にある唯一の事業所。コンビナート地区特有の大量ロットの保管ニーズに応える「工場倉庫」としてだけでなく、今後関東圏で老朽化倉庫を建て替える際の貨物の移管先や将来的な事業所の統廃合の受け皿としても重要な役割を担う。

同事業所では現在、普通品倉庫（毒劇物・保税対応）のほか、危険物倉庫5棟（消防法第1類・第2類・第4類・第5類・毒劇物・定温・保税対応）が稼働。16年3月に新設した定温対応の危険物倉庫もフル稼働している。今回新設する危険物倉庫は当初は常温を想定しているが、将来的な定温化にも備えている。

千葉事業所が立地するコンビナート地区は、その特性上、各種規制や制約がある一方、「生産拠点に近接する立地やセキュリティ面で、危険物や毒劇物、



新設する危険物倉庫の完成イメージ

その両方に該当する貨物の集約保管拠点として、将来的にポテンシャルが高まる」（同社）と見る。新たなビジネスチャンスを獲得すべく、同事業所でのさらなる危険物倉庫増設も視野に入れる。

自動倉庫化は社会情勢や ニーズ見極め判断

同事業所での設備の更新も進めていく。18年6月には川崎事業所（川崎市川崎区）で同社で3機目となる危険物自動立体倉庫が稼働。スクラップ&ビルドに伴う事業所内のオペレーションの苦勞もあつたが、中長期的に展開していく老朽化倉庫の建て替え工事の際の進め方に関する「知見」を得ることができた。

長期ビジョンの第2ステージの投資のターゲットとなるのが、旗艦事業所のひとつである横浜事業所（横浜市緑区）。普通品倉庫、危険物倉庫から成る同事業所では医薬品製造業の許



川崎事業所の危険物自動立体倉庫

可を取得し、医薬品、医薬品原料等の取り扱いを得意としているが、危険物にフォーカスし、危険物倉庫の増設を検討する。

その際、限られた敷地で保管能力を大幅に向上できるとともに、省人化にもつながることから、自動倉庫の導入も想定。これまでの運営実績によりピッキングの精度向上、破損事故の削減、作業の標準化や負担軽減などのメリットを感じているが、投資額が大きいことから、社会情勢や顧客ニーズを見極めて判断する。

ITを利用した受発注業務の効率化も推進する。「受注センター」的な統合機能を整備することで、事業所ごとに人員を配置している受発注業務、貨物情報等の対応業務の合理化を計画。各部門が行っている資料作成作業などもRPA（Robotic Process Automation）等を導入し、当該作業の人員を他部門に振り向けるなど人的資源の有効活用につなげる。



横浜事業所でも危険物倉庫増設を検討

在宅勤務支援！

期間限定で本紙全文をWebで公開中

www.cargo-news.co.jp

歩き続けること

近年、ここまで「物流」が注目を集めたことがあっただろうか？

値上げ、人不足など、物流業界の課題が、イコール社会の課題となった今。

メーカー、小売、様々な企業が物流に注目している。物流は、もはや物流屋だけの専売特許ではない。

だからこそ、私どもは歩みを止めてはならない。物流の老舗企業としての誇りをかけて、私どもは歩き続ける。

物流不動産で夢を語ろう

イーカーゴ株式会社

創業100年、物流総合企業

秋元運輸倉庫株式会社

情報をビジネスにつなぐ情報商社

アルケミートレード株式会社

物流業界の井戸端会議、メルマガ「秋元通信」好評配信中！

築港(本社・神戸市中央区、瀬戸口仁三郎社長)は、国内危険物流事業の基盤をさらに拡充する。名古屋地区では主力の名古屋化学品センター(愛知県弥富市)の近隣で「第2名古屋化学品センター」として危険物倉庫5棟(計5000㎡)の増設を計画。多様な顧客ニーズに対応するため、築港が強みを持

つ港湾地区だけでなく、内陸部も含めて最適な保管先を提案するため、危険物倉庫を運営する倉庫・運送会社との協力関係も引き続き強化していく。

危険物倉庫5棟、普通品倉庫1棟を増設

「昨年後半から荷動きはばらつきがある。2月は新型コロナウイルスの影響で中国関連の輸出入貨物の取り扱いが3〜4割落ちた。現在は中国の工場が再稼働し、欧米でのウイルスの感染が深刻化する中、代替として中国発の貨物が一気に増えている。一昨年、昨年ほどの忙しさはないが、ほぼ荷動きは平常に戻っている」と瀬戸口社長は話

旺盛な危険物倉庫の需要に応



危険物倉庫の需要は旺盛

築港

名古屋地区で危険物倉庫を拡充

来秋に3棟竣工、定温化も計画

つ港湾地区だけでなく、内陸部も含めて最適な保管先を提案するため、危険物倉庫を運営する倉庫・運送会社との協力関係も引き続き強化していく。

危険物倉庫5棟、普通品倉庫1棟を増設

えるため、2018年10月には、京葉臨海鉄道が建設した危険物倉庫(1000㎡)2棟を築港が借り受ける形で市原倉庫(千葉県市原市)を開設。19年2月には、神戸地区のキャパシティ増強を図るため、遠矢浜第3倉庫(神戸市兵庫区)の敷地内で危険物倉庫(1000㎡)1棟を増設した。

さらに、名古屋地区ではフル稼働している名古屋化学品センターの近隣に1万9800㎡の



フル稼働している名古屋化学品センター



神戸では災害対策で止水板を設置

類、常温庫では第1・5類の取り扱いを想定している。
このほか自社施設ではポートアイランド化学品センター（神戸市中央区）で現在、ISOタンクコンテナの加温設備を従来の10レーンから14レーン（加温方式は蒸気・温水）に増設する工事を実施中。また、同業他社とのネットワークを強化し、自社拠点以外の危険物倉庫もニーズに応じて顧客に提案していく。

に検索可能な「ezCRIC」を利用し、通関業務を効率化。独自のトラック受付システム「CTAS」については神戸、横浜、名古屋の主力拠点で運用し、トラックの待機時間の削減につなげている。
将来的な労働力不足への対応や業務の生産性向上を図るため、RPA（Robotic Process Automation）の導入準備も進めている。国内貨物に関する出荷依頼の受付から送り状の発行までの一連の業務や、輸出貨物のドキュメント作成などを自動化するソフトをベンダーとともに開発する。

トラック受付システム「CTAS」を運用

用地を確保。危険物倉庫（1000㎡）5棟と普通品倉庫1棟（延床面積は未定）から成る「第2名古屋化学品センター」（愛知県弥富市）を新設する。危険物倉庫のうち1棟については定温化する計画だ。

従来から力を入れている情報システムの活用も強化する。日本ケミカルデータベースが提供する、化学品の該当法律を迅速



瀬戸口社長

海外事業では、中国でのフォワーディング事業が順調に推移しているほか、17年に現地法人を設立したベトナムでは、現地の輸入者ライセンスを取得し、メーカー、商社の輸入をサポートする体制を整えた。現地の危険物に関する法制度の整備や規制の強化の動きを受け、知見とノウハウを持つ築港への引き合いが増えているという。

日陸

輸送、倉庫のネットワークを強化

物流センター事業では脱自前主義

日陸（本社・東京都千代田区、能登洋一社長）は、労働力人口が減少する中でも、顧客に安定した物流サービスを提供するため、バルク輸送の輸送能力を10年間で2倍にする計画だ。

トワークをシステム化し、最適な拠点の提案により業界全体の稼働率アップに貢献したい考えだ。

危険物倉庫を核とした物流センター事業では、

「逆張り」で輸送能力増強、
現行の2倍に

「自前主義」にこだわらず、同業他社とのネット

「危険物・化学品のバルク輸



輸送能力を2倍に増強



AEO倉庫業者
AEO通関業者

100年からの更なる前進
最適な時間と空間を創造する
総合物流企業

東 海 運 株 式 会 社

代表取締役社長 長島 康雄

〒104-6233 東京都中央区晴海1-8-12
晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーZ 33階
TEL:03-6221-2200 <http://www.azumaship.co.jp/>

危険物の保管に関するお問い合わせはこちらまで
【危険物マルチワークステーション】

〒800-0113 福岡県北九州市門司区新門司北3-1-25
TEL:093-342-8125 FAX:093-342-8128

【北九州物流部 危険品倉庫課】

〒801-0805 福岡県北九州市門司区太刀浦海岸11-1
TEL:093-331-6486 FAX:093-331-9189

送は安全・品質面で高度な技術
を要し、仮に自動運転が実現す
るとしてもいちばん最後にな
る。輸送需要に対してドライバ
ーの供給が追い付かなくなるの
は明らかだ。そういった中で、
当社は「逆張り」で輸送能力を
増強することで、お客様の信頼
を獲得したい」と能登社長は話
す。

具体的には、2019年から
10年間で自社のドライバーを約
200人新たに確保し、現行の
輸送能力の2倍にする計画を推
進。「前から日陸で仕事をした
かった」というドライバーが応
募してくるなど、順調なペース
で進んでいる。輸送全体の53%
を委託している協力会社とのネ
ットワークも緊密にし、輸送能
力増強も支援していく。

ス不足を背景に各地で増設が進
んでいるが、将来的には需要と
供給のバランスが崩れ、供給過
剰になることも想定される」と
みる。

一方で、「既存の施設が空い
ているのに、情報不足のため有
効利用できていない」など危険
物倉庫の需要と供給の「アンマ
ッチ」を指摘。危険物倉庫業界
全体の稼働率向上を目的とした
ネットワークをシステム化した
い考え。「自社倉庫にこだわら
ず、お客様のニーズに合った拠
点を提案していきたい」と話
す。

千葉で危険物該当医薬品
対応の流通センター竣工

立地や商材などから必要と判
断した自社倉庫への投資につい
ては、引き続き積極的に行って
いく。6月には、「土気流通セ
ンター」（千葉市緑区）が竣工
予定。普通品倉庫、危険物一般
取扱所で構成され、GDP（医



土気流通センター完成予想図

薬品の適正流通基準）に対応。
アルコール製剤をはじめ危険物
該当医薬品などを取り扱う。
化学、医薬メーカーなども進
出している千葉土気緑の森工業
団地内の約4万3000㎡の敷
地に、第1期工事として建設す
るもの。新設する危険物一般取
扱所、普通品倉庫合わせて約7
000パレットの収容、取り扱
いが可能。消防法第4類、5類

および指定可燃物のほか、毒劇物の取り扱いにも対応する。ラベル貼りや検品など流通加工に力を入れていく。

千葉外房有料道路「大木戸IC」に直結するなど交通アクセスに優れた「土気流通センター」は、流通型の貨物をターゲットとし、「千葉物流センター」（千葉県市原市）の一部の貨物を移管する予定。同センターについては、コンビナート地区の顧客の保管業務に特化することとし、利用ニーズに合った拠点を提案していく。

プラットフォームとなる クロスドックセンターを計画

危険物・化学品に関して路線便の引き受け制限が顕著になってきていることを受け、危険物の小口混載配送の本格的な事業

化も進めている。小口の危険物を集めてトラックに混載し、ラストワンマイルまで配送するもので、集荷・配送のプラットフォームとなる事業所を川越（埼玉）で計画、化学品のクロスドックセンターとして機能させる方針。

近年M&Aにより事業基盤の拡充を図っているタンクターミ



NRSケミカルセンターではタンク増設も検討

ナル事業では、名古屋地区の事業拠点「NRSケミカルセンター」（名古屋港区）の敷地内で1000kl、500klタンクの増設も検討。また、ISOタンクコンテナのデポ事業では、山口県周南市で新たなデポ（6700㎡）が12月に稼働予定だ。

海外では、ベトナム事業を強化する。18年10月に現地法人を設立後、フォワーディングを主体に事業展開してきたが、現地の潜在需要とマーケットの開拓に意欲を見せる。



能登社長

日本コンセプト

タンクコンテナ事業で着実な成長へ

「環境、つなぐ未来。」を新Cーに

日系ISOタンクコンテナオペレーター最大手の日本コンセプト（本社・東京都千代田区、松元孝義社長）はケミカルタンクコンテナによる化学品・危険物などのワンウェイ輸送サービスと、ガスタンクコンテナを用いた高圧ガスのトータルソリューション提供力を拡充し、荷主企業の物流効率化と環境への負荷低減に貢献することで、着実な成長を図る。

コンテナ稼働率の向上へ
各地域の連携を強化

2019年12月期の決算は増収増益を達成し、売上高は4期連続の増収となった。国内のデポ拠点においてISOタンクコンテナに積載した貨物の保管や加温といった付帯サービスが伸長するとともに、輸出入取引においても、輸入取引の伸長に伴



19年度はタンクコンテナの付帯サービスが伸長

い増加したタンクコンテナの在庫を活かした輸出入拡大への取り組みが奏功した。ガスタンクコンテナによるトータルソリューション事業も取扱数を拡大

させた。

直近の20年12月期第1四半期は、新型コロナウイルス感染症拡大により中国発から日本発へシフトした輸取出引を着実に取り込むことにより増収基調を維持。ただ、取引を見込んでいた地域と実際の輸送ニーズの発生地域にズレが生じ、コンテナ回送費用が高んだことで減益に転じた。

今年3月末時点の保有タンクコンテナ基数は8172基で、前年同月比287基（3・6%）増加したが、新型コロナウイルスの影響を受けて稼働率は75・7%から70・9%へ低下。今後は回送抑制に向けて、各地域の情報連携をより高めることで需給バランスの取れたコンテナ配置につなげる。今期末時点のコンテナ予想保有基数8650基も、必要に応じて見直しを図る。

ガスタンクコンテナ事業で顧客開拓を推進

同社は現在、国内7カ所（千葉・神奈川・新潟・三重・兵庫・山口・岡山）でデポ拠点を運営するが、既存拠点のスペースがひっ迫することを見込んで、新たなデポの開設も視野に入れる。

また、18年に資本業務提携を締結した商船三井との協業はグローバルで広がっており、北米では米ヒューストンで商船三井グループとオフィスを共有するなど、同社グループの営業ネットワークを活用しながら連携を強化している。昨年6月にはメキシコ総代理店業務を商船三井ロジステイクスの現地法人へ委託し、中米との取引拡大が進ん

でいる。

今後は、商船三井グループが海外に持つ物流拠点を活かしたビジネス構想なども協議。日本コンセプトでは既にマレーシアでもデポを稼働しているが、経済成長の続く東南アジア地域ではタンクコンテナビジネスにさらなる需要増加が期待されるといふ。さらに、中東地域でも中長期的なタンクコンテナ市場の成長が見込まれており、商船三井との連携を強めていく。

ケミカルタンクコンテナ事業に次ぐ、第二の事業柱として17年にスタートしたガスタンクコンテナ事業は順調に売り上げを伸ばし、19年12月期の売上高も前期比72・8%増の4億800万円となった。ガスタンクコンテナ事業は、フロンガスなどの輸送・保管・回収・再生・無害化（分解）をまとめて提供するトータルソリューションであり、従来の京葉臨海支店高圧ガス事業所に加えて、昨年12月には阪神支店にも無害化設備を導入し、東西でのサービス体制を確立した。同事業は既存顧客との取扱基数拡大に加え、ガスタンクコンテナの定期検査などの付帯作業の受託も増加しており、20年に入っても目標を上回る成長を続けている。新型コロナウイルスの感染拡大で新規顧客開拓が難しい状況にはあるが、フロンガスを冷媒として使用するメーカーなど新たな顧客層にもアプローチしたい考えだ。

「環境にやさしい」重点にリブランディング

日本コンセプトでは昨年1年

間をかけ、コーポレートアイデンティティ（C I）のリブランディングも実施した。ISOタンクコンテナ事業が「環境にやさしいビジネス」であることを社内外へ改めて周知するため、HPや企業理念を刷新し、事業内容をSDGsの17目標にも落とし込んだ。これに併せて、顧客や投資家、学生に向け、会社を紹介する短編動画や漫画といったPRツールも揃えた。

若園三記生常務は「当社のビジネスモデルはそれ自体が環境にやさしく、事業を自然体で行うだけで環境への負荷低減に貢献している——ということを、今後は外部の皆さんにもしっかりとお伝えしていきたい」と話す。



今年1月に稼働した阪神支店のガス無害化設備（左）と、倉庫兼作業場

日立物流ファインネクスト

茨城県で危険物倉庫5棟を開設

22年には滋賀県で大型拠点新設



危険物自動倉庫を運用する関西ケミカルセンター

（茨城県古河市）からも近く、古河市の新倉庫は約3kmの場所
で、下妻市の新倉庫も約20kmの
立地。首都圏ケミカルセンター
は、危険物倉庫8棟（7500
㎡）と一般品倉庫（1万970
0㎡）から成る大型物流拠点と
なっており、同所と連携した運
用によって、1万㎡超の倉庫面
積で荷主企業の多様な危険物物
流ニーズに応えられる。

日立物流ファインネクスト
（本社・東京都中央区、細貝弘
幸社長）は来年にかけて、茨城
県で2拠点、5棟の危険物倉庫
を開設する。さらに、2022
年には滋賀県でも危険物倉庫を
運営する計画。既存拠点がフル
稼働状態にあることから、東西
で危険物倉庫を整備し、需要が
増している危険物の保管ニーズ
に応える。

滋賀県で危険物倉庫
5棟分の用地を準備

茨城県では、今年9月に古河
市で危険物倉庫3棟（計300
0㎡）を、来年1月に下妻市で
危険物倉庫2棟（計2000
㎡）を開設する予定にある。い
ずれも協力会社が新設する危険
物倉庫を全棟借りし、危険物第
4類に対応した平屋建ての倉庫
となる。17年5月に稼働した
「首都圏ケミカルセンター」

以上運用しており、豊富な
実績を持つことが強み。リ
チウムイオン電池や化粧品
原料などで多い大口の保管
需要にも応じることが可能
であり、周辺には日立物流
グループの拠点も充実して
いるため、一般品の保管に
も柔軟に対応できる。
同社の危険物倉庫は現
在、首都圏ケミカルセンタ
ーと関西ケミカルセンタ
ー、中京ケミカルセンター
（愛知県春日井市、一般品
倉庫1200㎡、危険物倉

庫800㎡）の3拠点が稼働す
るが、各センターともほぼ満床
状態にある。東西での倉庫新設
計画に加え、市場動向を見なが
ら中部地域の庫腹増強なども視
野に入れていく。

化学品・危険物の小口混載
輸送も安定的に稼働

新設倉庫の計画にあわせて、
既存倉庫の付加価値向上も推
進。首都圏ケミカルセンターで
は一般品倉庫と危険物倉庫の各
260㎡ほどで保税蔵置場（輸
出）としての許可を受け、北関
東に製造工場を持つ荷主企業な
どの輸出貨物を取り扱ってい
る。同センターでは薬事法に基
づく化粧品および医薬部外品の
製造業許可も取得している。

化学品・危険物の小口混載輸
送事業も安定的に稼働してお
り、配送エリアは首都圏ケミカ
ルセンターから1都6県（東
京・千葉・埼玉・神奈川・茨
城・栃木・群馬）へ1日35台、
関西ケミカルセンターからは2
府2県（大阪・兵庫・京都・奈



配車支援システムで効率化と積載率向上へ

タンクコンテナの 洗浄・整備は おまかせください



当社は地球環境・生活環境を守るための徹底した安全管理・衛生管理のもとに液体化学品・食品輸送の国際物流に積極的に貢献しております。



NCストルト輸送サービス株式会社

本社・東京支店:

〒143-0001 東京都大田区東海4丁目1番21号

本社 TEL (03) 3799-9500 FAX (03) 3799-2600

東京支店 TEL (03) 3799-9447 FAX (03) 3799-2600

神戸支店:

〒650-0045 兵庫県神戸市中央区港島6丁目7番1号

TEL (078) 303-2371 FAX (078) 303-0824

名古屋支店: NCストルト中京輸送サービス株式会社

〒455-0855 愛知県名古屋市港区藤前1丁目1152番

TEL (052) 303-1120 FAX (052) 303-1160

レポート

総合物流会社が危険物・化学品物流を強化

高まる存在感、拠点やサービスを充実

総合物流会社が危険物・化学品物流事業を強化している。長年にわたる有力メーカーとの強固なパイプや国内外の幅広いネットワークを駆使し、拠点やサービスの充実を図り、存在感を高めつつある。その重点戦略をレポートした。(掲載は社名50音順)

良)へ33台、中京ケミカルセンターからは愛知県内を対象に11台のトラックが運行する。

首都圏ケミカルセンターでは小口混載輸送の業務効率化と積載率向上を目的に、配車支援システムも導入。配車支障の情報もデータ化したことで、積込リストの出力作業などが簡素化したという。さらに、今後データが蓄積されればより高効率な配車も可能になる。同システムは今期中をメドに、関西およ

び中京ケミカルセンターにも展開していく。

今後は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も見込まれるが、「お客様に提案できる倉庫も増え、前身のDICロジテック時代から蓄積する長年の危険物物流ノウハウを発揮し、法令順守を徹底した高品質な物流サービスを提供していきたい」と営業企画本部営業開発部の松尾豊部長は話す。



松尾部長(左)と西田洋祐担当課長

東海運

北九州で多様な危険物物流ニーズに対応

定温・加温保管、個品への荷姿変更も



定温対応の危険物倉庫（写真右）

既存の施設がフル稼働していたことから、太刀浦地区から近い「マリナクロス新門司」に新たに約1万8600㎡の事業用地を確保。昨年4月に「危険物マルチワークステーション」の第1期工事が竣工し、開業した。第1期工事で稼働した危険物倉庫（1000㎡）は消防法危険物第4類1〜4石と第5類を扱える。作業の効率化を図るため両面シャッターを採用。庇を5m確保し雨天時荷役も行える。

また、45tリーチスタッカーを配備し、危険物ISOタンクコンテナ80基を保管できる危険物屋外貯蔵所を設置。危険物第4類1〜4石、アルコール類の貯蔵に対応する。非危険物の実入りコンテナを40基保管できるインランドデポも開設した。

定温危険物倉庫を増設、一般取扱所が稼働

度上半期中の稼働を目指す。

危険物マルチワークステーションを開業

東海運では門司港太刀浦地区で危険物倉庫（定温含む）、毒劇物庫などの運営実績があり、2016年には同地区でISOタンクコンテナ40基を蔵置できる危険物屋外貯蔵所を開設。併設した一般取扱所で加温（蒸気）、荷姿変更のサービスを展開している。

第2期工事では、昨年9月に

危険物倉庫1棟（1000㎡）が稼働。消防法危険物第4類に対応し、うち500㎡を定温化。定温庫は0〜20℃、0〜25℃の2庫を設け、25℃対応スペースでは加温も行える。

ISOタンクコンテナの加温（蒸気・スチーム）および各種荷姿変更に対応できる一般取扱所も開設。8基の同時加温が可能で、トラック・コンテナスケールを備え、ISOタンクコンテナ、ローリーから個品（ドラム、IBC、一斗缶）への詰め替えも行える。

また、4月には新たに危険物屋外貯蔵所（552㎡）と高圧ガスタンクコンテナ貯蔵所を設置。危険物屋外貯蔵所ではドラム換算で3024本を貯蔵可能で、危険物第4類3石、4石に対応する。

高圧ガスタンクコンテナ貯蔵所は、引火性、毒性物質も扱うことができ、九州地区でも希少な施設となる。現在保管できるのは2基だが、最大で15基程度を想定し、順次、拡張も計画している。



一般取扱所全景



加温設備

m²の鉄骨造り平屋建て。保税貨物にも対応できる。保管庫内は5℃、前室は15℃に温度を設定し、停電時に自動的に稼働が切り替わる非常用発電機を設置した。保管効率を高めるため移動ラックを導入。雨天時荷役に対応できるよう、構内で屋根付き荷捌き場も新設した。

3社連携によるソリューションサービス体制を構築

四日市地区ではMCLCおよびYCSと連携し、タンクコンテナ関連サービスを拡充。YCSの昨年2月に稼働した加温設備、MCLCの化学品取り扱いノウハウ、トランシイが運営す



トランシイのバンプール

るバンプールや危険物倉庫群を有機的に組み合わせたソリューションサービス体制がこのほど整った。

3社が提案するのは多頻度・小ロット化に最適なタンクコンテナを活用した、化学品メーカー

の計画的な調達物流だ。液体貨物の輸入でタンクコンテナを使うことで小ロット化し、必要なタイミングで加温後、納品することができると。熱履歴を少なくすることで製品品質の安定化にもつながる。

また、中部地区のエンドユーザー向けに加温が必要な液体貨物を納品する際、中部地区でタンクコンテナのまま保管し、エンドユーザーが指定する納品のタイミングに合わせて加温、納品することができると。今後はタンクコンテナで四日市地区に持ち込んだ化学品の加温、保管に加え、小分け、移し替えなどのニーズにも対応していく方針だ。

丸 運

危険物・毒劇物の需要開拓を成長源に

新中計期間中に新たな危険物倉庫の新設も

丸運（本社・東京都中央区、荒木康次社長）は、2020年度からスタートした新中期経営計画で、大都市圏における危険物・毒劇物の新たな需要開拓を打ち出している。危険物の物流では現在、専用拠点である「川崎ケミカルセンター」（川崎市川崎区）での取り扱いが中心だが、旺盛な需要を獲得するため、中計期間中での危険物倉庫の新設や危険物取り扱い製品の拡大などを視野に入れている。

石油輸送需要が漸減、危険物を成長分野に

同社は石油元売り最大手のJXTGエネルギーのグループ会社であり、ロ

業は成熟期にあるものの、危険物を中心に一定程度の需要が見込まれるため、新たな事業の柱に育つ可能性がある。その一環として今年4月に実施した組織再編では、潤滑油・化成製品事業部を石油輸送事業部

社であり、ローリー車による石油製品輸送が一般貨物事業と並ぶ事業の2本柱。ただ、石油製品の内需は漸減傾向が続いており、将来的な収益減少が見込まれている。そうした中で、潤滑油・化成製品

- JXTGエネルギーの石油輸送中核会社化
- 事業体質の強化
 - ・ エリア戦略：エリア配送の最適化等
 - ・ 協力会社との連携強化（選択と集中）
- 供給インフラの効率的整備による大都市圏での危険物・毒劇物需要の開拓
 - ・ 危険物倉庫の新設
 - ・ 危険物扱い製品の拡大
 - ・ 自車ローリーの充実
- 大口顧客の事業戦略に対応した物流サービスの提案および提供
 - ・ 当社のインフラを活用した近畿エリアでの2次基地構想
 - ・ 関西地区での危険物倉庫新設
 - ・ 低収益拠点の再構築
 - ・ 海外（ポーダレス）案件の取込

エネルギー輸送事業部のアクションプラン

鹿島港における初めての パブリックタンクターミナル基地



営業品目 一般化学品
 営業種目 化学品等の積卸施設及び荷捌き施設の運営、
 倉庫業、海上輸送事業、貨物利用運送事業、
 ISO(タンク)コンテナ保管等

丸全昭和運輸グループ 鹿島タンクターミナル株式会社

代表取締役社長 野口 三郎

〒314-0103 茨城県神栖市東深芝 16-26
 TEL：0299-77-8611 FAX：0299-77-8619



高層自動ラックを擁する
 川崎ケミカルセンター

缶、ペール
 缶、袋物、ケ
 ース物、フレ
 コンバッグ、
 タンクコンテ
 ナなど多様な
 荷姿にも対応
 するほか、危
 険品の国内外
 一貫物流の需

要にも応えている。
 また、当社では川崎ケミカル
 センター以外にも、仙台物流セ
 ンター、日立北倉庫、西多摩物
 流センター、日立中央物流セン
 ター、小牧物流センターなど危
 険物の保管に対応した拠点を展
 開している。
 今後は、川崎ケミカルセンタ
 ーを中心とした既存拠点でのさ
 らなる取扱品目の拡充などに加
 え、新たな危険物倉庫の整備を
 通じて、危険物の物流ニーズを
 開拓していく。

に統合して名称を「エネルギー
 輸送事業部」に変更し、両部門を
 一体的に運営する体制にした。
 今期からスタートした「第3
 次中期経営計画」（20～22年
 度）では、エネルギー輸送事業
 部におけるアクションプランと
 して、「大都市圏での危険物・
 毒劇物需要の開拓」を掲げ、危
 険物倉庫の新設、危険物取り扱
 い製品の拡大、自車ローリーの
 充実を進める方針を打ち出し
 た。具体的には、関西地区にお
 ける新たな危険物倉庫の新設な
 どを検討しているようだ。同社
 では「国内の危険物倉庫は不足
 気味で確保が困難。当社の川崎

ケミカルセンターもほぼ満床の
 状態」としており、倉庫の新設な
 どを通じて危険物の保管や輸送
 需要の取り込みを図っていく。
**川崎ケミカルセンターは
 幅広いメニューに対応**
 現在、同社の危険物物流の中
 核拠点となっているのが、20
 00年に開設した川崎ケミカル
 センター。川崎港に至近の臨海
 地域にあり、危険物高層自動ラ
 ック倉庫（1158㎡）と平屋
 倉庫（1067㎡）で構成され
 る。危険物第4類第1～4石油
 類に対応し、ドラム缶や一斗



高品質な危険物の取り扱いを実現

丸全昭和運輸

危険物倉庫、3年間で約1・7倍超に

中ロット混載輸送サービスも拡充



南海浜倉庫営業所で増設した危険物倉庫

倉庫の増設を進めるとともに、化学品などを対象とした中ロット混載輸送サービスを強化している。

昨年11月末時点で危険物倉庫は、仙台物流センター営業所、南海浜倉庫営業所、平塚営業所、小牧配送営業所、四日市倉庫営業所、堺倉庫営業所、播磨危険物倉庫営業所、竜野危険物倉庫連絡所、岡山倉庫、倉敷第一危険物倉庫、倉敷第二危険物倉庫、小倉危険物倉庫および鹿島タンクターミナルの計13拠点（約2万4000㎡）で運営。

22年までに危険物倉庫をさらに約1万4000㎡拡充する計画（構想含む）を進めており、19年12月には鹿島地区の3PLの中核拠点である南海浜倉庫営業所（茨城県神栖市）で990㎡の危険物倉庫2棟を増設し、うち1棟には300㎡の定温（5〜20℃）庫を設置。保税蔵置場として輸出入貨物も扱うなど拠点の充実を図った。

消防法危険物第4類1石の取り扱いも強化

4月には、横浜港エリアにある輸出梱包センター（横浜市金沢区）で145㎡の危険物倉庫が竣工。このほど建設が決定した岩沼物流センター（宮城県岩沼市）に危険物倉庫（500

丸全昭和運輸（本社・横浜市中区、浅井俊之社長）では化学品分野での3PL事業を強化するため、危険物倉庫のネットワークを拡充する。2022年までの3年間で、運用面積を19年比で約1・7倍に相当する約3万8000㎡まで拡大する計画。拠点の整備と併せて、東名大をカバーした中ロット貨物の混載輸送サービスの対象を、現行の一般化学品から危険物、毒劇物へと広げ、より広範な顧客ニーズに対応していく考えだ。

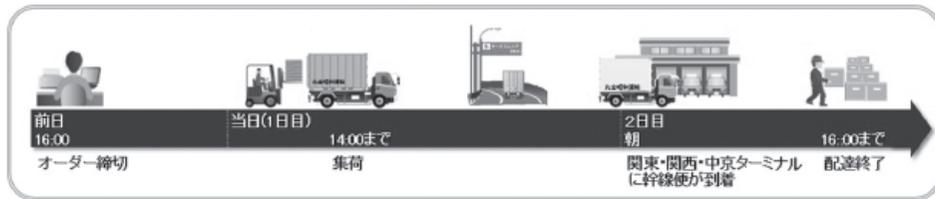
3PL事業で化学品分野は有力ターゲット

同社では大手化学品メーカーの構内作業、輸送、保管などで長年の実績があり、売上高の約40%を占める。近年注力する3PL事業において化学品分野は有力ターゲットとされ、営業に注力。その一環として、危険物

東名大の幹線輸送と二次配送ネットワーク



集荷・配送時間のフローチャート



化成品事業、車両事業など幅広く展開する 化学品の総物流ターミナル



化学品事業

タンク業務
倉庫業務
積み替え・
詰め替え業務
分析業務
運送業務
(鉄道・海上・陸上)

車両事業

高圧ガス容器製作
高圧ガス容器再検査
高圧ガス設備の製作
及びメンテナンス
各種タンクコンテナの
製作・点検・補修
載せ替え・外装工事
各種塗装工事
(プラスチックもOK)
リース業務

その他事業

冷蔵倉庫
配送センター
賃貸マンション
売電(太陽光発電)



関西化成品輸送株式会社

〒554-0024 大阪市此花区島屋6丁目1番135号
総務部・財務部：TEL.06-6468-5222 FAX.06-6468-5233
営業部：TEL.06-6468-7441 FAX.06-6468-7448
車両事業部：TEL.06-6464-4621 FAX.06-6464-1753
<http://www.kansai-sp.co.jp>



輸出梱包センターの危険物倉庫

㎡)を併設するほか、グループの武州運輸倉庫の埼玉倉庫(埼玉県加須市)の敷地に2棟計1400㎡の危険物倉庫を新設し、1棟は定温化が可能な設計とする。

また、危険物倉庫が少ない栃木や広島で新たな危険物倉庫を構想中であるほか、中部、関西地区で危険物を扱える拠点を増やしていく方針。グループ会社の敷地も候補地として視野に入れている。危険物倉庫の運営では、消防法危険物第4類の2

4石に加え、1石の取り扱いも強化。主要拠点での毒劇物保管ニーズにも対応していく。

東名大で中ロット貨物を混載、1日5便運行

これまで丸全昭和運輸は貸し切り便が主体だったが、中ロット(200kg〜2000kg)貨物を積み合わせ、東名大の幹線輸送と二次配送をつなぐ独自の混載輸送サービスも昨秋から開始。一般化学品などを対象とし、関西→関東へ2便、東海→関東へ1便、関東→東海へ1便、関東→関西へ1便の計5便が「東名大幹線便」として毎日運行している。

「東名大幹線便」および二次配送のネットワークのターミナル(TC)拠点は関東が2カ所(東京営業所、東名横浜物流センター)、中部が1カ所(東海倉庫)、関西が3カ所(特殊輸送関西物流センター、堺物流セ

ンター、播磨危険物倉庫)で、一部の拠点を除き集荷配達(20〜30km圏内)を実現。発送された貨物は翌日中に配達する。

原則パレットサイズされた貨物を扱い、ドラム缶、IBC(中容量容器)、フレコンバッグ、紙袋など多様な化学品の荷姿に対応。一連のサービスを活用することで、路線便よりも積み替え回数を少なくでき物流品質が向上。拠点と運行を自社で運営することで残貨のリスクを減らせる。また、貨物のトレース情報も自社システムで提供する予定だ。

現在、東京・埼玉・千葉・神奈川の全域でトライアル配送を実施。配達エリアは順次拡大していく方針にある。近年、路線便が引き受けを敬遠・中止する傾向にある危険物、毒劇物の輸送ニーズに対応するための準備を進めており、既存のTCで危険物を扱えるような体制の整備を計画している。

話題

保土谷ロジが周南市の拠点で営業強化

国内最大級の危険物屋外貯蔵所を保有

保土谷ロジステイクス（本社・東京都中央区、今井章博社長）では、コンビナートに隣接する危険物物流拠点「南陽営業所」（山口県周南市）の営業を強化する。6万4000㎡を誇る広大な敷地に国内最大級の危険物屋外貯蔵所を保有しており、顧客のニーズによっては同地に危険物倉庫の新設も検討する。

周南市には石油・化学・鉄鋼等の基礎素材産業が集積する日本有数の石油化学コンビナートが形成されている。保土谷ロジの「南陽営業所」は周南工業地帯の最先端の一角に立地。県道172号線に至近で、国道2号線から山陽自動車道へもアクセスが良く、中国地方全域および西日本をカバーする拠点となる。

同営業所の最大の特徴が1万6500㎡の充実した貯蔵スペース。危険物屋外貯蔵所、危険物倉庫、危険物定温倉庫（3℃～5℃）、一般倉庫を配備する。保税貨物も取り扱うことができるため、輸出入物流

基地としても利用可能。東アジア航路や韓国・中国航路が就航する徳山下松港にも至近の距離にある。

危険物屋外貯蔵所は1万3500㎡でドラム缶換算で4万本を収容可能。現在、スペースに余裕ができたことから新たな顧客も募集している。危険物屋外貯蔵所のあるスペースには1000㎡の危険物倉庫4棟を新設することもできるため、顧客のニーズや貨物特性を踏まえながら新たな設備投資も視野に入れる。



周南営業所の危険物屋外貯蔵所



ダイヤモンド・オンラインと
カーゴニュースがおくる
経営層に向けた「物流情報プラットフォーム」

DOL 特集 BUSINESS AND LOGISTICS
LOGISTICS LOGISTICS LOGISTICS
経営×物流
日本の企業経営には今、CLOが必要だ

DOL 特集 BUSINESS AND LOGISTICS
LOGISTICS LOGISTICS LOGISTICS
経営×物流
日本の企業経営には今、CLOが必要だ

DOL 特集 BUSINESS AND LOGISTICS
LOGISTICS LOGISTICS LOGISTICS
経営×物流
日本の企業経営には今、CLOが必要だ

<https://diamond.jp/go/pb/logistics/>

経営 物流 検索